

三宅島：東京から 175km、東京都下とはいえ飛行機で約 1 時間、東海汽船の定期船で約 7 時間、遙か南の洋上に浮かぶ伊豆七島の一つです、元は海底火山の爆発によって出来た島で、三宅島の中心にある雄山は 20 年～ 30 年に 1 度は噴火をしています。

1983 年には雄山が噴火、溶岩流が広範囲に流れ、集落を呑み込みながら海に流れ込んでおります。

2000 年 6 月 26 日の夕方、三宅島の海底で群発地震が発生、同時に三宅島の雄山の山頂西側阿古地区で、深さ 2 ～ 3km 位の浅い深度の地震が起こり始め、有感地震が 24 回連続し、その後震源が山頂より南西方向へ移動、島の海岸に至り、海底へと移動を続け、神津島で M6.4 の地震あり、三宅島と神津島の間点辺りで海底地震が連続で発生、海上保安庁水路部の海洋調査船が海底に新たな火口の活動を確認。

雄山でも新たな火口ができ、噴火活動しはじめ、気象庁は大噴火の怖れを発表、

更にマグマ水蒸気爆発噴火による、二酸化硫黄を含む火山ガス（有毒）が発生。

同夜半には、自衛艦到着待機（合計 10 隻）海上保安庁巡視船 4 隻警戒態勢。

総合対策本部（東京都庁、警視庁合同）で避難勧告発令、危険地帯と指定された、三宅島 阿古地区住民 1256 人、  
坪田・三池地区住民 1106 人が避難、乗船した。



（火山ガスで枯れた樹木）

その後、全島民の避難命令となって、全島民が島を離れ、東京、神奈川、静岡等に分散避難生活となり、その後も噴火、地震、有毒な火山ガスを発生を続けた。

安全宣言が出され、島に帰ることが出来たのは、2005 年 2 月 1 日、4 年 5 ヶ月に及ぶ長い避難生活だった。

2011 年 7 月 23 日、三宅島避難時を背景とした「ロック～わんこの島」というタイトルの感動的な映画が公開された。

少年と可愛がっていた子犬 ロック との交流と、突如、避難のための離島、子犬との別かれ、動物保護センターでの再会と物語は進む。



Q：伊豆大島・三宅島は同じ火山帯と思いますが、他にも火山活動がありますか？

A：噴火した火山帯は富士箱根火山帯の続きで、伊豆七島、小笠原諸島、更に南へ続き太平洋戦争時の激戦地硫黄島もこの続きです。

伊豆七島の最南端が青ヶ島でここまでは人が住んでいますが、小笠原諸島の父島までは無人島や岩があり、活発な火山活動が続いています。

鳥島には気象観測所がありましたが、火山活動が激しく、危険と判断し観測所は閉鎖され、観測員は全員撤退してから無人島になり、信天翁の産卵場です。

私の体験ですが、鳥島沖を航過中、旧観測所はどうなっているだろうと、双眼鏡で覗い